

後期臨床研修プログラム

腫瘍内科専門医コース / 呼吸器内科専門医コース / 呼吸器外科専門医コース /

1.研修の概要及び特徴

2.研修体制および研修方法

3.研修定員及び処遇

4.指導体制

指導医名簿

5.各科コースとプログラム

●腫瘍内科専門医コース ●呼吸器内科専門医コース ●呼吸器外科専門医コース

1.研修の概要及び特徴

【研修理念】

○専門医にふさわしい知識と経験、そして人間性を育成する。

○自ら問題を解決し、次の医学界をリードする人材を育成する。優れた後継者を育成できる能力を身につける。

【概要】

当センターは昭和 17 年の創設以来、70 年を超える歴史ある病院である。特に肺がん、悪性中皮腫など胸部悪性腫瘍の診療、呼吸器疾患の診療に多くの実績と功績を残している。

「がん専門病床」を 190 床、「緩和ケア病床」を 25 床有し、胸部悪性腫瘍の診断、外科治療、放射線治療、抗がん剤治療、緩和医療を一貫して行なっている。一般病床の 70%以上ががん患者である。「呼吸器病床」を 42 床、「結核病床」を 30 床、「集中治療病床」を 4 床を有し、気管支喘息、肺気腫、間質性肺炎、慢性閉塞性肺疾患、重症肺炎などの診療に極めて多くの実績を挙げている。

このような実績を背景に、当センターは国立病院機構の中国地方呼吸器疾患基幹病院であり、日本臨床腫瘍学会・日本呼吸器外科学会・日本胸部外科学会・日本呼吸器学会・日本呼吸器内視鏡学会・日本放射線腫瘍学会・日本がん治療認定機構の認定施設、呼吸器外科専門医認定機構・日本呼吸器外科指導医制度の基幹施設、日本アレルギー学会の教育施設、日本外科学会の関連施設、日本医学放射線学会放射線科専門医修練の協力施設、臨床研修協力施設に認定されている。日本医療機能評価機構の認定を受けている。

年間がん患者は 550 例を超え、うち肺がん症例が 360 例を占めている。肺がん手術症例数は年間 200 例を、中皮腫の手術は年間 10 例を超えている。がん化学療法患者は年間 400 例を超え、放射線治療件数は 4000 件を超えている。診療録管理士による「がん登録」が行なわれている。「文部科学省研究費」や「厚生労働省がん研究助成金」により「がんワクチン」の開発研究、中皮腫の診断精度の向上に関する研究、がん薬物療法の効果予測研究、

がん患者の予後解析研究などの基礎研究や、がん新薬や新レジメンによる第 II 相、第 III 相臨床研究などが盛んに行なわれている。

腫瘍内科専門医コース終了時には、臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医など、日本呼吸器内科専門医コース終了時には、呼吸器学会・呼吸器内視鏡学会専門医など、呼吸器外科専門医コース終了時には呼吸器外科・胸部外科専門医の取得が可能である。

当センターの診療科、病床数、医師数、指導医数は以下の通りである。

診療科	医師数	うち指導医数	病床数
血液・腫瘍内科	5	3	100
呼吸器内科	4	1	50
呼吸器外科	7	4	38
乳腺・消化器外科	1	1	混合
緩和ケア内科	2	1	25
放射線科	2	1	混合
内科	2	1	混合
病理診断科	1	1	---
精神科	1	1	混合
循環器内科	1	1	混合
小児科	3	1	120
麻酔科	1	1	---
画像診断科	1	1	---
集中診療科	1	1	4

2.研修体制と研修方法

【後期臨床研修プログラム】

臨床研修教育責任者 病院長 上岡 博

臨床研修プログラム総責任者 副院長 松本常男

【目的】

山口宇部医療センターの後期臨床研修は、初期研修終了者に臨床腫瘍、呼吸器内科の専門修練、呼吸器外科の専門修練を行い、臨床腫瘍医、呼吸器内科専門医、呼吸器外科専門医の育成を目指す。

【一般目標】

- 専門医にふさわしい人格、知識、技術の熟成を目指す。
- エビデンスに基づく、しかも患者ごとに適切な治療計画を立案し、適切なインフォームド・コンセントを得ることができる。
- チームリーダーとしてスタッフを率い、研修医を指導する能力を身につける。

○ 適切な臨床研究を立案し、呼吸器疾患の医療をリードする研究能力を身につける。

【到達目標】

- 構成プログラムに則った症例を経験する。
- 専門医として適切な治療計画を立案する。
- 専門医として適切なインフォームド・コンセントを得る。
- 医療スタッフと適切な関係を築く。
- 専門医として臨床研究を理解し、適切に遂行する。
- 学会発表、論文作成能力を身につける。
- 呼吸器内科専門医、臨床腫瘍学会専門医、呼吸器外科専門医などを取得する。

【研修期間】

初期臨床研修終了後、5年間とする。ただし、研修指導医と相談の上プログラム期間の変更は可能である。

【研究内容】

臨床研修は全期間を山口宇部医療センターで、各専門領域の研修を行なう。当院は胸部悪性腫瘍、呼吸器疾患に特化した専門病院であるから、より幅広い内科、外科研修を希望する場合には、後期研修当初の2～3年間を関門医療センターで一般内科あるいは一般外科の研修を行ない、その後の2～3年を山口医療センターでの専門研修を行なうことも可能である。

【研修中の医師に処遇】

国立病院機構非常勤医師給与規定のレジデント区分を参考としての給与設定を行う。卒後5年を超えた段階で、常勤医師としての給与設定で雇用する。

【研修中の海外、国内留学】

研修中の医師のうち、優秀な医師に対しては国立病院機構と米国退役軍人健康庁 (Veterans Health Administration, VHA) との連携による米国退役軍人病院への留学制度がある。

また、その専門研修内容に応じて、国立がん研究センター中央病院、国立がん研究センター東病院、国立病院機構近畿中央胸部疾患センターなどへの国内各医療機関への留学等も可能である。

【選択研修コースの申請と終了認定】

- 研修を希望する医師は、希望する研修コースを、当センター研修責任者を介して国立病院機構本部に申請する。
- 研修コースを終了した医師は、修了書など必要書類を、当センター研修責任者を介して国立病院機構本部に認定申請を行う。
- 国立病院機構本部は、認定申請された諸書類を研修プログラム等審査委員会において審査し、認定を行う。

【研修終了後の特典】

本研修コースを終了した医師は、申請により診療科診察医として認定される。認定者のう

ち本機構の医員として雇用を希望するものに対しては、学位取得者と同等と評価し、処遇上の優遇を行う。ただし、国内で同様の内容の研修認定を行う機関が設立された場合には、その機関で認定された資格に応じた処遇上の優遇を行う。

また、優秀な医師は、その専門性に応じて、Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, Cleveland Clinic, 国立がん研究センターなどへ採用推薦も可能である。

3. 研修定員および処遇

【研修定員】

腫瘍内科専門医コース、呼吸器内科専門医コース、呼吸器外科専門医コース、 各数名

【処遇】

- ・身 分 後期研修医として非常勤職員（原則、当初3年のみ）、以後は常勤医師待遇
- ・給 与 国立病院機構非常勤職員給与規定に基づく（原則、当初3年のみ、時給3,120円）
- ・勤務時間 1日の勤務時間 6H 週5日勤務（原則、当初3年のみ）
- ・社会保険 健康保険、厚生年金、雇用保険に加入

【その他】

- ・定期健診 年2回

【問い合わせ先】

TEL 0836-58-2300 副院長・松本

E-mail: matumoto-5@hosp.go.jp

臨床腫瘍医専門コース

1. 診療科（専門領域）

○腫瘍内科

2. コースの概要

1. 当初より臨床腫瘍専門医研修を開始するコース

	内容	期間	詳細
卒後3年目	臨床腫瘍専門医プログラム I	1年	腫内専門医 プログラム I
卒後4年目	臨床腫瘍専門医プログラム I	1年	腫内専門医 プログラム I
卒後5年目	緩和ケアプログラム	1年	緩和ケア プログラム
卒後6年目	臨床腫瘍専門医プログラム II	1年	腫内専門医 プログラム II
卒後7年目	臨床腫瘍専門医プログラム II	1年	腫内専門医 プログラム II

本コースは極めて専門性高い臨床腫瘍医を要請するコースである。

2. 関門医療センターで一般内科研修を追加するコース

	研修先	内容	期間	詳細
卒後3年目	関門医療センター	総合診療プログラム	6ヶ月	
	関門医療センター	救命救急プログラム	6ヶ月	
卒後4年目	山口宇部医療センター	呼吸器内科プログラム	6ヶ月	
	山口宇部医療センター	緩和ケアプログラム	6ヶ月	緩和ケア プログラム
卒後5年目	関門医療センター	循環器科プログラム	6ヶ月	
	関門医療センター	消化器科プログラム	6ヶ月	
卒後6年目	山口宇部医療センター	臨床腫瘍専門医プログラム I	1年	腫内専門医 プログラム I
卒後7年目	山口宇部医療センター	臨床腫瘍専門医プログラム II	1年	腫内専門医 プログラム II

本コースは一般内科研修（総合診療、救命救急、呼吸器内科、緩和ケア、循環器科、消化器科）の上に臨床腫瘍専門医プログラムを上乗せするものである。

3. 取得資格

○日本内科学会認定医・日本臨床腫瘍学会専門医

4. 長期目標

○臨床腫瘍専門医となる。

5. 取得手技

○抗がん剤使用、オピオイドの使用、腫瘍緊急対応、気管内挿管、胸腔穿刺、人工呼吸管理、気管支鏡検査、硬性鏡検査、気管ステント留置

6. 研修期間

○5年間

7. 募集人数

○数名

8. 診療科の実績と経験目標症例数

○年間症例数

主要疾患	入院数（年間）	目標症例数
肺がん	300	70
中皮腫	20	5
胃がん	20	5
肝臓がん	10	3
乳がん	10	3
大腸がん	10	3

9. 診療科の指導体制

○診療科医師数 常勤 5名

○診療科研修の指導にあたる医師 3名

○主として研修指導にあたる医師の氏名 前田忠士内科系診療部長、青江啓介内科系診療部長、近森研一腫瘍内科医長

呼吸器内科専門コース

1. 診療科（専門領域）

○呼吸器内科

2. コースの概要

1. 当初より呼吸器内科専門医研修を開始するコース

	研 修 先	内 容	期 間	詳細
卒後 3 年 目	山口宇部医療センター	呼吸器内科プログラム	1 年	呼吸器内科プロ グラム.
卒後 4 年 目	山口宇部医療センター	呼吸器内科専門医プロ グラム I	1 年	呼内専門 プロ グラム I
卒後 5 年 目	山口宇部医療センター	呼吸器内科専門医プロ グラム I	1 年	呼内専門 プロ グラム I
卒後 6 年 目	山口宇部医療センター	呼吸器内科専門医プロ グラム II	1 年	呼内専門 プロ グラム II
卒後 7 年 目	山口宇部医療センター	呼吸器内科専門医プロ グラム II	1 年	呼内専門 プロ グラム II

本コースは極めて専門性高い呼吸器内科医を要請するコースである。

2. 関門医療センターで一般内科研修を追加するコース

	研 修 先	内 容	期 間	詳細
卒後 3 年 目	関門医療センター	総合診療プログラム	6 ヶ 月	
	関門医療センター	救命救急プログラム	6 ヶ 月	
卒後 4 年 目	山口宇部医療センター	呼吸器内科プログラム	6 ヶ 月	呼吸器内科プロ グラム
	山口宇部医療センター	緩和ケアプログラム	6 ヶ 月	緩和ケア プロ グラム
卒後 5 年 目	関門医療センター	循環器科プログラム	6 ヶ 月	
	関門医療センター	消化器科プログラム	6 ヶ 月	
卒後 6 年 目	山口宇部医療センター	呼吸器内科専門医プロ グラム I	1 年	呼内専門 プロ グラム I

卒後 7 年 目	山口宇部医療センター	呼吸器内科専門医プロ グラム II	1 年	呼内専門 プロ グラム II
-------------	------------	----------------------	-----	-------------------

本コースは一般内科研修（総合診療、救命救急、呼吸器内科、緩和ケア、循環器科、消化器科）の上に呼吸器内科専門医プログラムを上乗せするものである。

3. 取得資格

○日本内科学会認定医・呼吸器内科専門医・日本臨床腫瘍学会専門医

4. 長期目標

○呼吸器内科専門医となる。

5. 取得手技

○気管内挿管、胸腔穿刺、人工呼吸管理、気管支鏡検査（生検、超音波内視鏡、蛍光内視鏡）、硬性鏡検査、気管ステント留置

6. 研修期間

○5 年間

7. 募集人数

○数名

8. 診療科の実績と経験目標症例数

○年間症例数

主要疾患	入院数 (年間)	目標症例 数
肺癌	360	70
呼吸器感染症 (肺結核を含む)	250	70
慢性閉塞性肺疾患	200	45
気管支喘息	100	20
間質性肺炎	120	25
睡眠時無呼吸症候群	50	20
慢性呼吸不全 (呼吸リハビリテーション)	60	25
急性呼吸不全 (ICU 管理, ARDS)	40	20

9. 診療科の指導体制

○診療科医師数 常勤 5 名

○診療科研修の指導にあたる医師 2 名

○主として研修指導にあたる医師の氏名 青江啓介内科系診療部長、尾形呼吸器内科医師

呼吸器外科専門コース

1. 診療科（専門領域）

○呼吸器外科

2. コースの概要

1. 当初より呼吸器外科専門医研修を開始するコース

	研 修 先	内 容	期 間	詳細
卒後 3 年 目	山口宇部医療センター	呼吸器外科プログラム	1 年	呼吸器外科プログラ ム
卒後 4 年 目	山口宇部医療センター	呼吸器外科専門医プロ グラム I	1 年	呼外専門医プログ ラム I
卒後 5 年 目	山口宇部医療センター	呼吸器外科専門医プロ グラム I	1 年	呼外専門医プログ ラム I
卒後 6 年 目	山口宇部医療センター	呼吸器外科専門医プロ グラム II	1 年	呼外専門医プログ ラム II
卒後 7 年 目	山口宇部医療センター	呼吸器外科専門医プロ グラム II	1 年	呼外専門医プログ ラム II

本コースは極めて専門性高い呼吸器外科医を要請するコースである。

2. 関門医療センターで一般外科研修を追加するコース

	研 修 先	内 容	期 間	詳細
卒後 3 年 目	関門医療センター	総合診療プログラム	6 ヶ 月	
	関門医療センター	麻酔科プログラム	6 ヶ 月	
卒後 4 年 目	山口宇部医療センター	呼吸器外科プログラ ム	1 年	呼吸器外科プロ グラム
卒後 5 年 目	関門医療センター	消化器外科プログラ ム	1 年	
卒後 6 年 目	山口宇部医療センター	呼吸器外科専門医プ ログラム	1 年	呼外専門医プロ グラム I
卒後 7 年 目	山口宇部医療センター	呼吸器外科専門医プ ログラム	1 年	呼外専門医プロ グラム II

本コースは一般外科研修（総合診療、麻酔科、呼吸器外科、消化器外科、呼吸器外科）の上
に呼吸器外科専門医プログラムを上乗せするものである。

3. 取得資格

○外科専門医、呼吸器外科専門医

4. 長期目標

○専門性の高い呼吸器外科専門医となる。

5. 取得手技

○肺がん手術、胸腔鏡下肺がん手術、胸膜肺全摘手術、良性肺疾患手術、胸腔鏡下良性肺疾患手術、縦隔腫瘍手術、胸腔鏡下縦隔腫瘍手術、気管支鏡検査、気管支動脈塞栓術、CT下肺生検

6. 研修期間

○5年間

7. 募集人数

○数名

8. 診療科の実績と経験目標症例数

○年間手術件数

主要疾患	手術件数	目標症例数
肺癌	200	30
悪性胸膜中皮腫	15	3
転移性肺腫瘍	15	3
肺良性腫瘍	10	5
縦隔腫瘍	10	5
胸壁胸膜腫瘍	10	5
気胸	20	10
膿胸	10	5

9. 診療科の指導体制

○診療科医師数 常勤7名

○診療科研修の指導にあたる医師 4名

○主として研修指導にあたる医師の氏名岡部和倫統括診療部長、松田英祐呼吸器外科医長、田中俊樹呼吸器外科医長、田尾裕之外科医長

指導医名簿

氏名	職名	専門医など
上岡 博	院長	岡山大学医学部臨床教授
		山口大学医学部臨床教授
		日本肺癌学会理事
		日本癌治療学会評議員
		日本臨床腫瘍学会評議員、暫定指導医
		日本呼吸器学会代議員
		日本老年医学会代議員、指導医
		日本呼吸器内視鏡学会代議員
松本常男	副院長	山口大学医学部臨床教授
		日本医学放射線学会診断専門医
		日本医学放射線学会代議員
		日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医
		山口県成人病管理指導協議会肺がん部会会長
岡部和倫	統括診療部長	呼吸器外科専門医
		日本呼吸器外科学会指導医、評議員
		日本胸部外科学会指導医
		日本外科学会専門医・指導医
		日本呼吸器学会専門医・指導医
		日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医
		日本肺癌学会評議員
		ECFMG Certificate（米国医師資格）
石田浩一	内科医長	日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医
前田忠士	内科系診療部長	日本呼吸器学会専門医
		日本臨床腫瘍学会暫定指導医
		日本呼吸器内視鏡学会専門医
		日本内科学会専門医

青江啓介	内科系診療部長	日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医
		日本呼吸器学会専門医、指導医
		日本呼吸器内視鏡学会指導医
		日本臨床腫瘍学会暫定指導医
		日本癌治療学会暫定教育医
		日本肺癌学会評議員
		環境省中央環境審議会専門委員
近森研一	腫瘍内科医長	日本内科学会認定医
		日本呼吸器学会専門医
平澤克敏	乳腺・消化器外科医 長	日本外科学会専門医
		日本消化器外科学会認定医
		マンモグラフィー検診精度管理中央委員会読影認定 医
小野光弘	精神科医長	精神保健指定医
		日本てんかん協会山口県支部副代表
		総合病院精神医学会専門医

腫瘍内科専門医 プログラム I

1. コンセプト

広い内科医の研修の上に腫瘍内科専門医を築き上げる。

2. 目標

分子腫瘍学、抗がん剤の耐性機構、抗がん剤の種類と臨床薬理、臨床治験と GCP、臨床試験、放射線腫瘍学、がん化学療法の基本原則、インフォームドコンセントなどを理解する。

3. 取得手技

II 相臨床試験、第 III 相臨床試験、腫瘍効果判定、腫瘍随伴症状に対する対応、オンコロジーエマージェンシーへの対応、必要な統計学の理解、白血病、小細胞がん、乳癌、大腸癌、卵巣がんの内科的治療、サイコオンコロジーの理解

4. 経験症例数

主要疾患	目標症例数
肺癌	70
食道癌	10
大腸癌	25
肝臓癌	10
膵癌	6

腫瘍内科専門医 プログラム II

1. コンセプト

広い内科医の研修の上に腫瘍内科専門医を築き上げる。

2. 目標

造血器腫瘍、脳腫瘍、頭頸部がん、肺癌、乳癌、食道癌、大腸癌など、各種癌の標準的治療法を会得する。

3. 取得手技

放射線腫瘍学、腫瘍生物学、抗がん剤の種類と毒性、その副作用対策を理解する。悪性リンパ腫、頭頸部腫瘍、食道癌、胃癌、骨軟部腫瘍、皮膚がん、肝胆膵がん、子宮がん、泌尿器癌、非小細胞肺癌、等の治療を行なう。

4. 経験症例数

主要疾患	目標症例数
肺癌	70
食道癌	10
大腸癌	25
肝臓癌	10
膵癌	6

緩和ケアプログラム

1. コンセプト

腫瘍内科学に欠かせない終末期緩和ケアを修得する。

2. 短期目標

終末期患者の症状コントロールを学ぶ。

終末期患者の精神的ケアを学ぶ。

3. 短期取得手技

鎮痛剤の使用法、モルヒネの使用法、緩和ケア特有の症状コントロール法、不安・抑うつへの対処法、家族への対処法

呼吸器内科プログラム

1. コンセプト

呼吸器内科医として基本的手技の修得と診断から治療への過程を経験する。

2. 短期目標

- 1) 呼吸器疾患の主要症候と身体所見の理解
- 2) 呼吸器疾患の基礎的検査、手技の修得
- 3) 呼吸器疾患の診断・治療の実践

3. 研修する疾患

肺腫瘍性疾患（肺癌など）、胸膜疾患（悪性中皮種など）、縦隔疾患、感染症および炎症性疾患（肺結核を含む）、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、細気管支炎（びまん性汎細気管支炎など）、アレルギー性肺疾患、特発性間質性肺炎、サルコイドーシス、稀少性肺疾患（肺胞蛋白症、肺リンパ脈管筋腫症など）、じん肺症、肺循環障害、薬剤・化学物質・放射線による肺障害、全身疾患に伴う肺障害（膠原病肺など）、呼吸中枢の疾患（睡眠時無呼吸症候群を含む）、慢性呼吸不全、急性呼吸不全（急性呼吸促迫症候群）

呼吸器内科専門医プログラム I

1. コンセプト

呼吸器内科医として主要な疾患を中心に症例を重ねると共に、稀な症例や複雑な症例も経験する。

2. 短期目標

定型的な呼吸器疾患のみならず、稀な疾患、複雑な状態の患者への対応力を養う。

3. 取得手技と経験する疾患

CT ガイド下生検、気管支内視鏡検査（BAL、TBLB、異物処置、レーザー等の治療手技）、診断と治療【肺腫瘍性疾患（肺癌など）、胸膜疾患（悪性中皮種など）、縦隔疾患、感染症および炎症性疾患（肺結核を含む）、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、細気管支炎（びまん性汎細気管支炎など）、アレルギー性肺疾患、特発性間質性肺炎、サルコイドーシス、稀少性

肺疾患（肺胞蛋白症、肺リンパ脈管筋腫症など）、じん肺症、肺循環障害、薬剤・化学物質・放射線による肺障害、全身疾患に伴う肺障害（膠原病肺など）、呼吸中枢の疾患（睡眠時無呼吸症候群を含む）、慢性呼吸不全、急性呼吸不全（急性呼吸促迫症候群）]

呼吸器内科専門医プログラム II

1. コンセプト

呼吸器内科専門医としてオールラウンドな力をつける。臨床研究によるエビデンスの構築、研修医を教育する能力を養う。

2. 短期目標

呼吸器内科専門医として十分な臨床能力を養うと共に、臨床研究の遂行力、研修医の教育力を身につける。

3. 取得手技と疾患

臨床研究プロトコール作成

診断と治療【肺腫瘍性疾患（肺癌など）、胸膜疾患（悪性中皮種など）、縦隔疾患、感染症および炎症性疾患（肺結核を含む）、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、細気管支炎（びまん性汎細気管支炎など）、アレルギー性肺疾患、特発性間質性肺炎、サルコイドーシス、稀少性肺疾患（肺胞蛋白症、肺リンパ脈管筋腫症など）、じん肺症、肺循環障害、薬剤・化学物質・放射線による肺障害、全身疾患に伴う肺障害（膠原病肺など）、呼吸中枢の疾患（睡眠時無呼吸症候群を含む）、慢性呼吸不全、急性呼吸不全（急性呼吸促迫症候群）

呼吸器外科 プログラム

1. コンセプト

呼吸器外科医として最も基礎となる手技の確実な修練を目指す。

2. 目標

- 1) 呼吸器外科医に必要な一般的処置の修得
- 2) 呼吸器外科医に必要な検査手技の修得
- 3) 呼吸器外科医に必要な手術手技の修得

3. 取得手技

気管内挿管、人工呼吸管理、気管支鏡検査、胸腔鏡（手技および診断）、CT ガイド下生検、開胸・閉胸術、肺部分切除術、肺のう胞切除術、肺縫縮術、気管切開術、胸腔ドレナージ術

4. 経験目標件数

手術	目標件数（1年）
肺葉切除術	10
肺区域切除術	3

肺摘除術	2
縦隔腫瘍切除術	3
胸腔鏡下肺葉切除術	10
胸腔鏡下肺区域切除術	2
胸腔鏡下肺部分切除術	5

呼吸器外科専門医 プログラム I

1. コンセプト

呼吸外科医として最も頻度が多く、大切な肺癌手術の手技を、特に開胸下での手技の確実な修得をする。また、胸腔鏡下手術、特に胸腔鏡の操作も修練する。

2. 目標

定型的な呼吸器外科手術手技を修得する。

3. 取得手技

縦隔鏡検査（手技及び診断）、肺動脈造影、気管支動脈造影、気管支動脈内薬剤注入術、気管支動脈塞栓術、開胸下肺葉切除術、区域切除術、肺摘除術、リンパ節郭清を伴う肺切除術、縦隔腫瘍手術、縦隔ドレナージ、心嚢ドレナージ

4. 経験する症例数

手術	目標件数（1年）
肺葉切除術	15
肺区域切除術	5
肺摘除術	3
縦隔腫瘍切除術	5
胸腔鏡下肺葉切除術	15
胸腔鏡下肺区域切除術	3
胸腔鏡下肺部分切除術	8

呼吸器外科専門医 プログラム II

1. コンセプト

6年目に取得した開胸下での肺癌手術の手技を応用し、胸腔鏡下の肺癌手術の手技を取得する。また、トラブルにも対処できる判断力、技術を取得する。また膿胸等の炎症生肺疾患の手術もできるようになる。研究能力、更新の指導力を養う。

2. 目標

胸腔鏡下手術手技の修得とともに、臨床研究の能力、研修医への指導力も身につける。

3. 取得手技

胸腔鏡下肺がん手術（肺葉切除術、区域切除術）、胸腔鏡下縦隔腫瘍切除術、肺膿胸手術

4. 経験する症例数

手術	目標件数 (1年)
肺葉切除術	15
肺区域切除術	5
肺摘除術	3
縦隔腫瘍切除術	5
胸腔鏡下肺葉切除術	20
胸腔鏡下肺区域切除術	5
胸腔鏡下肺部分切除術	10